

岡崎森林組合

定時モニタリング報告書

作成日 令和7年10月17日

作成者 アミタ株式会社

木村 直貴

フォレストック認定番号 0049

フォレストック認定日 令和3年11月10日(第1年度)

定時モニタリング日 令和4年11月10日(第2年度)

定時モニタリング日 令和5年11月10日(第3年度)

定時モニタリング日 令和6年11月10日(第4年度)

定時モニタリング日 令和7年11月10日(第5年度)

【モニタリング実施概要】

1 対象森林の概要

令和3年11月「森林CO₂吸収・生物多様性等調査報告書」記載のとおり

2 評価基準

「森づくりにおける森林吸収源・生物多様性等評価基準」令和4年10月1日改訂版

3 調査日程

(1) 現地調査日

—

(2) モニタリング担当者名簿

氏名	所属	役職
木村 直貴	アマタ株式会社	

(3) モニタリング報告書作成責任者氏名

氏名	所属	役職
木村 直貴	アマタ株式会社	

1. フォレストストック認定の基礎事情に関する特記事項

- ・対象森林の地権関係の変動:なし
- ・対象森林の境界紛争の有無:なし
- ・森林認証及び森林経営計画の継続・更新・取消等の状況:
森林認証は取得していない。
森林経営計画継続中。

名称	林班	計画期間	所有者数	面積(ha)
千万町町	2126-2128, 2130-2131	R3.4.1～R8.3.31	14	145.72
眞木宏哉	属人計画	R4.10.1～R8.9.30	1	119.07

- ・対象森林の面積の変動:雨山町の森林経営計画が令和7年3月31日付で終了となり、対象森林から除外された。

2. 森林の管理・経営面に関するモニタリング

- (1)経営主体、経営組織、経営目的変更等の経営管理体制の変更に関する特記事項:

なし

- (2) (1)の他、「森林CO₂吸収・生物多様性等調査報告書」作成時以降に発生した森林の管理・経営面の認定基準充足に著しい影響を及ぼすおそれ^(※1)のある事情:

なし

- (3)フォレストストック認定基準の充足に関する記載:

認定調査時と比較し、森林の管理・経営面に関して大きな変化は認められず、管理・経営面の評価は調査報告書と同水準であると判断する。これによりフォレストストック認定基準である森林の管理・経営面の評価点数50点を維持している。

- (4)大きな変化が明らかな^(※2)評価項目については、その概要について記載:

大きな変化はない。

(※1) 「認定基準充足に著しい影響を及ぼすおそれ」とは、フォレストストック認定基準である50点を下回るおそれをいう。

(※2) 「大きな変化」とは、フォレストストック認定基準の充足とは関係なく、評価を大きく見直す必要がある場合を指す。

3. 生物多様性等の評価に関するモニタリング

(1)「森林吸収源・生物多様性保全等に関する調査報告書」作成以後に発生した森林の生物多様性の認定基準充足に著しい影響を与えるおそれ^(※1)のある事情：

なし

(2)フォレストック認定基準の充足に関する記載：

認定調査時と比較し、周辺環境及び施業方法等に関して大きな変化は認められず、生物多様性の評価は調査報告書と同水準であると判断する。これによりフォレストック認定基準である生物多様性の評価点数50点以上を維持している。

(3)大きな評価の増減が明らかな^(※2)評価項目については、その概要について記載：

大きな評価の増減はない。

(※1)「認定基準充足に著しい影響を与えるおそれ」とは、フォレストック認定基準である50点を下回るおそれをいう。

(※2)「大きな評価の増減」とは、フォレストック認定基準の充足とは関係なく、評価を大きく見直す必要がある場合を指す。

4. CO₂吸収量の確定・算定

(1) 施業に関する数値の集計・整理

① 主伐量・主伐予定量に関する数値の集計・整理

樹種	A. 当該年度主伐予定量(対象期間:令和6年11月10日～令和7年11月9日) ^(※1)	B. 主伐実績量		C. B－A	翌年度主伐予定量(令和7年11月10日～令和8年11月9日) ^(※5)
		申告済主伐実績量 (令和6年11月10日～令和7年8月9日) ^(※2)	みなし主伐実績量 (令和7年8月10日～令和7年11月9日) ^{(※3)(※4)}		
スギ	1 ha	0 ha	0 ha	-1 ha	1 ha
ヒノキ	1 ha	1 ha	0 ha	0 ha	1 ha

詳細は下記(3)、(4)参照

(※1) 「当該年度主伐予定量」には、認定取得者から提出された「主伐予定量申告書」に記載されている主伐予定量を記載した。

(※2) 「申告済主伐実績量」には、当該年度の2度の6カ月報告(「施業実績報告書」)の数値を記載した。

(※3) 「みなし主伐実績量」とは、当該年度において2度目に提出された施業実績報告書に記載された、施業対象期間満了日の翌日から翌年度の定時モニタリング日(次年度の年度当初日)の前日までに認定取得者が見込んでいる主伐量のことをいう。上記表のみなし主伐実績量の欄には、定時モニタリングの際に、認定取得者が当社のモニタリング調査担当者及びフォレストストック協会に提出した「みなし実績量申告書」に記載された数値を記載した。

(※4) 認定取得者は、翌年度の定時モニタリング日(次年度の年度当初日)から2週間以内に、「施業実績報告書(みなし期間)」を当社及びフォレストストック協会に提出する。当社は、認定取得者から提出された「施業実績報告書(みなし期間)」に記載された申告実績量(以下、「確定申告実績量」という。)が事実と異なるおそれがあるか否かについて、定時モニタリング日の属する月の翌月末までに、必要に応じ認定取得者からの聞き取り又は認定取得者に帳票類(森林経営計画、伐採届・伐採許可・造林届出及び販売関係帳票等の写し等)の提出を求める等の手段により調査確認を行い、確定申告実績量の記載内容が事実と異なるおそれがあると思料する場合には、定時モニタリング日の属する月の翌月末までにその旨をフォレストストック協会に報告する。('みなし実績量確認手続')

(※5) 「翌年度主伐予定量」は、認定取得者が当社及びフォレストストック協会に対し、定時モニタリング日(翌年度の当初日)から2か月前までに提出した主伐予定量申告書に記載された数値を記載した。

② 自然災害等による被害(CO₂吸収量の減算要因)

なし

③ 樹種別更新量・更新予定量に関する数値の集計・整理

樹種	A. 当該年度更新予定量(対象期間:令和6年11月10日～令和7年11月9日) ^(※1)	B. 更新実績量		C. B-A	翌年度更新予定量(令和7年11月10日～令和8年11月9日) ^(※5)
		申告済更新実績量 (令和6年11月10日～令和7年8月9日) ^(※2)	みなし更新実績量 (令和7年8月10日～令和7年11月9日) ^{(※3)(※4)}		
スギ	0 ha	0 ha	0 ha	0 ha	1 ha
ヒノキ	0 ha	1 ha	0 ha	1 ha	1 ha

詳細は下記(3)、(4)参照

(※1) 「当該年度更新予定量」には、年度当初に認定取得者から提出された「主伐予定量申告書」に記載されている樹種別更新量を記載した。

(※2) 「申告済更新実績量」には、当該年度の2度の6カ月報告(「施業実績報告書」)の数値を記載した。

(※3) 「みなし更新実績量」とは、当該年度において2度目に提出された施業実績報告書に記載された、施業対象期間満了日の翌日から翌年度の定時モニタリング日(次年度の年度当初日)の前日までに認定取得者が見込んでいる更新量のことをいう。上記表のみなし更新実績量の欄には、定時モニタリングの際に、認定取得者が当社のモニタリング調査担当者及びフォレストストック協会に提出した「みなし実績量申告書」に記載された数値を記載した。

(※4) 認定取得者は、翌年度の定時モニタリング日(次年度の年度当初日)から2週間以内に、「施業実績報告書(みなし期間)」を当社及びフォレストストック協会に提出する。当社は、認定取得者から提出された「施業実績報告書(みなし期間)」に記載された申告実績量(以下、「確定申告実績量」という。)が事実と異なるおそれがあるか否かについて、定時モニタリング日の属する月の翌月末までに必要に応じ認定取得者からの聞き取り又は認定取得者に帳票類(森林経営計画、伐採届・伐採許可・造林届出及び販売関係帳票等の写し等)の提出を求める等の手段により調査確認を行い、確定申告実績量の記載内容が事実と異なるおそれがあると思料する場合には、定時モニタリング日の属する月の翌月末までにその旨をフォレストストック協会に報告する。(「みなし実績量確認手続」)

(※5) 「翌年度更新量」は、認定取得者が当社及びフォレストストック協会に対し、定時モニタリング日(翌年度の当初日)から2か月前までに提出した「主伐予定量申告書」に記載された樹種別更新量を記載した。

(2) (1)の数値につき、森林経営計画、伐採届・伐採許可、販売関係諸帳票などを勘案して、特段の意見があれば以下に記載する。

なし

(3) 当該年度(第4年度)のCO₂吸収量の確定

①主伐等により控除される吸収量の内訳

樹種	A	B	C	D (B×C)	E (D×係数)	F (E×44/12)
	齢級	主伐面積 (みなし含む) (ha)	面積あたりの材積 (m ³ /ha)	主伐木の蓄積 (m ³)	年間炭素排出量 (t-C/年)	年間控除CO ₂ 量 (t-CO ₂ /年)
ヒノキ	18	1	347	346.5	113	415
合計		1	-	347	113	415

②更新等により加算される吸収量の内訳

樹種	A	B	C	D (B×C)	E (D×係数)	F (E×44/12)
	齢級	更新面積 (みなし含む) (ha)	面積あたりの年間 成長量(m ³ /ha/年)	年間成長量 (m ³ /年)	年間炭素吸収量 (t-C/年)	年間CO ₂ 吸収量 (t-CO ₂ /年)
ヒノキ	1	1	0.4	0.4	0.2	0
合計		1	-	0.4	0.2	0

③当該年度(第4年度)のCO₂吸収量

○2024年11月10日-2025年3月31日までの期間(雨山町を含む)

	年間炭素吸収量(t-C/年)	年間CO ₂ 吸収量(t-CO ₂ /年)
当該年度(第4年度)年間吸収総量	175.0	642
控除	113	415
加算	0	0
当該年度(第4年度)年間実質吸収総量	62.0	227

※2024年11月10日-2025年3月31日までの日数(365分の142)を乗じた。

○2025年4月1日-2025年11月9日までの期間(雨山町を含まない)

	年間炭素吸収量(t-C/年)	年間CO ₂ 吸収量(t-CO ₂ /年)
当該年度(第4年度)年間吸収総量	116.1	426
控除	0.0	0.0
加算	0.0	0.0
当該年度(第4年度)年間実質吸収総量	116.1	426

※2025年4月1日-2025年11月9日までの日数(365分の223)を乗じた。

(4) 次年度(第5年度)のCO₂吸収量の算定

① 伐採等により控除される吸収量の内訳

樹種	A 齢級	B 主伐予定面積 (ha)	C 面積あたりの材積 (m ³ /ha)	D (B×C) 主伐予定木の蓄積 (m ³)	E (D×係数) 年間炭素排出量 (t-C/年)	F (E×44/12) 年間控除CO ₂ 量 (t-CO ₂ /年)
スギ	15	1	466.4	466.4	144.7	530.6
ヒノキ	15	1	323.4	323.4	105.7	387.4
合計		2.00	789.8	789.8	250.4	918

② 更新等により加算される吸収量の内訳

樹種	A 齢級	B 更新予定面積 (ha)	C 面積あたりの年間 成長量(m ³ /ha/年)	D (B×C) 年間成長量 (m ³ /年)	E (D×係数) 年間炭素吸収量 (t-C/年)	F (E×44/12) 年間CO ₂ 吸収量 (t-CO ₂ /年)
スギ	1	1.00	1.10	1.1	0.3	1
ヒノキ	1	1.00	0.44	0.4	0.0	0
合計		1.00	0.4	0.4	0.0	0

③ 次年度(第5年度)のCO₂吸収量

	年間炭素吸収量(t-C/年)	年間CO ₂ 吸収量(t-CO ₂ /年)
次年度(第5年度)年間吸収総量	189.3	695
控除	250.4	918
加算	0.0	0
次年度(第5年度)年間実質吸収総量	(61.0)	(223)

④ 5 評価・算定数値向上のための指摘事項

【指摘事項】 森林経営計画を順次策定し、間伐の推進に取り組んでいる。岡崎市森林整備ビジョンでは、2030年までに2,179haの間伐を目標としている。岡崎市森林組合では現在100haから150ha程度の間伐を計画しており、今後も間伐を積極的に行っていくことで、森林経営面で貢献するとともに、森林の健全度が増し、生物多様性も高まることが期待される。

【対応状況】毎年継続した間伐施業が実施されている。

【指摘事項】 林齢構成は比較的高齢級の林分も残されているが、戦後の拡大造林期に植林された12齢級がピークとなっている。また近年は材価の低迷により皆伐がほとんど行われず、若齢の林分が形成されていない。将来の資源の確保のために、林齢構成の平準化に向けた取り組みが求められる。

【対応状況】次年度はスギ・ヒノキ15年生の主伐を予定しており、林齢構成の平準化に向けて取り組む姿勢がある。

6 報告書作成にあたり確認等した資料及び書類等

- ・森林経営計画(3ページに記載の5計画)
- ・森林基本図

定時モニタリング結果報告 (第5年度)

認定取得者名： 岡崎森林組合
対象森林所在地： 愛知県岡崎市
フォレストック認定日： 令和3年11月10日
定時モニタリング日： 令和7年11月10日
モニタリング報告書作成日： 令和7年10月17日

1. 生物多様性の評価に関する特記事項
(森林CO₂吸収・生物多様性等調査報告書」作成時以降の著しい変化)
なし
2. 森林の管理・経営の評価に関する特記事項
(森林CO₂吸収・生物多様性等調査報告書」作成時以降の著しい変化)
なし
3. 森林吸収源の算定・確定
(1) 第1年度(令和3年11月10日～令和4年11月9日) 確定数量
年間炭素吸収総量： 451.6 t-C/年
年間CO₂吸収総量換算： 1,655 t-CO₂/年
実年間CO₂吸収量： 1,655 t-CO₂/年

(2) 第2年度(令和4年11月10日～令和5年11月9日) 確定数量
年間炭素吸収総量： 451.3 t-C/年
年間CO₂吸収総量換算： 1,654 t-CO₂/年
実年間CO₂吸収量： 1,270 t-CO₂/年

(3) 第3年度(令和5年11月10日～令和6年11月9日) 確定数量
年間炭素吸収総量： 450.7 t-C/年
年間CO₂吸収総量換算： 1,652 t-CO₂/年
実年間CO₂吸収量： 1,652 t-CO₂/年

(4) 第4年度(令和6年11月10日～令和7年11月9日) 確定数量
年間炭素吸収総量： 291.1 t-C/年
年間CO₂吸収総量換算： 1,068 t-CO₂/年
実年間CO₂吸収量： 653 t-CO₂/年

(5) 第5年度(令和7年11月10日～令和8年11月9日) 算定数量
年間炭素吸収総量： 189.3 t-C/年
年間CO₂吸収総量換算： 695 t-CO₂/年
実年間CO₂吸収量： -223 t-CO₂/年

証明者住所：〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台四丁目3番地
新お茶の水ビルディング12階
証明者所属機関：アミタ株式会社
氏名：FSC®主任審査員 木村 直貴

